

(電子メール施行)
農 技 第 1 5 6 7 号
令 和 3 年 3 月 1 7 日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察防除情報 第6号を發表します。

1～3月にかけてネギアザミウマの発生量が多く、気温の上昇に伴い、さらに増加することが予想されます。本種が媒介するアイリス黄斑ウイルス（以下、IYSV）による病害の発生と拡大が懸念されるため、圃場での発生状況を確認し、早期の防除を徹底するようご指導願います。

令和2年度病害虫発生予察防除情報 第6号

ネギアザミウマ（アイリス黄斑ウイルス（IYSV）による病害） の発生状況と防除対策について

- 1 対象作物 タマネギ、ネギ、ユリ、トルコギキョウ
- 2 病害虫名 ネギアザミウマ（アイリス黄斑ウイルス（IYSV）による病害）
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生状況と今後の発生について
 - (1) 加西市のタマネギ予察圃場（無防除）におけるネギアザミウマ（写真1、写真2）の発生推移は、多発年であった昨年と同様の傾向を示しており、発生量も平年より多い（図1、図2）。3月上旬の調査では、寄生株率96.0%（平年値51.3%）、成・幼虫数4.0頭/株（平年値2.0頭）と、いずれも平年より高くなっている。
 - (2) 3月上旬に淡路地域で実施したタマネギ巡回調査では、発生圃場率は、極早生～早生品種で100%（昨年値90.9%）、中生～晩生品種で43.8%（昨年値42.9%）と、昨年と同程度であった（表）。
成・幼虫数は、極早生～早生品種で0.24頭/株（昨年値6.45頭）、中生～晩生品種で0.08頭/株（昨年値0.27頭）と、昨年（多発年）より少ない状態であるが、極早生～早生品種において、中生～晩生品種より多くなっている（表）。
 - (3) 淡路地域の極早生タマネギでは、1月中旬からIYSVの保毒虫（ウイルスを保持した個体）が確認されており、2月の調査では、4地点中2地点で保毒虫が認められている。また、但馬地域の根深ネギでも、3月上旬に、5地点中2地点から保毒虫が確認されている。現時点では、両地域ともに、IYSVによる病徴は認めていない。
 - (4) 今後、気温の上昇に伴って本種の増殖にさらに好適な条件となり、発生量が急増すると予想される（図2：4月の平年・前年値を参照）。向こう1か月の近畿地方の気象予報（3月11日発表）では、気温は平年より高く推移すると予想されており、世

代が進むにつれて、本種の増殖が進み、極早生～早生タマネギから周辺圃場に移動して、中生～晩生タマネギやネギ等の作物で被害が助長される恐れがある。

5 防除上の留意点

- (1) タマネギ（写真3）やネギ（写真4）だけでなく、ユリ（写真5）、トルコギキョウ（写真6）でも、本虫の吸汁により IYSV が媒介され、ウイルス病による被害を生じる恐れがある（詳細は、令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号「アイリス黄斑ウイルスによる各種作物病害の発生」を参照）。本虫の発生が見られた場合は、早期に薬剤防除を行って密度を抑制するとともに、周辺圃場に移動分散しないように努める。
- (2) 本虫は雑草を含めた広範な植物に寄生する。また、IYSV も 17 科 40 種以上の植物で感染が報告されている。圃場周辺の除草や、収穫後の残渣を除去することで、ネギアザミウマの圃場への侵入や、IYSV の獲得機会を減らすよう努める。
- (3) 本虫は多発すると密度抑制が困難になるため、各圃場での発生状況をよく観察し、発生初期の防除を徹底する。タマネギやネギでは、主に新葉が重なっている部分に生息しているので、重点的に観察する（写真2）。
- (4) 薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)。本種は、各系統の殺虫剤に対する抵抗性の発達が懸念されている。抵抗性獲得を避けるため、同一系統薬剤を連用せず、系統の異なる薬剤をローテーションして使用する。

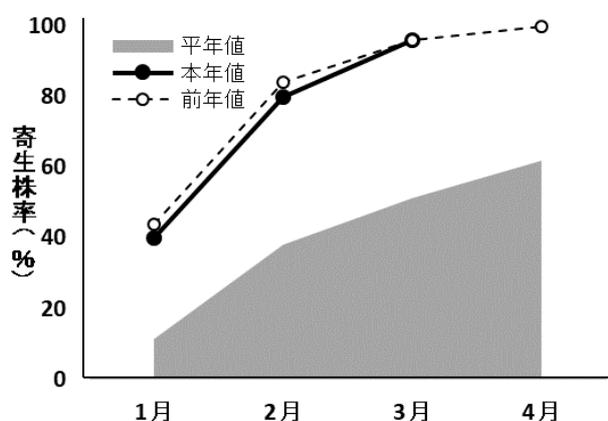


図1 タマネギ予察圃場（加西市）におけるネギアザミウマ寄生株率の推移

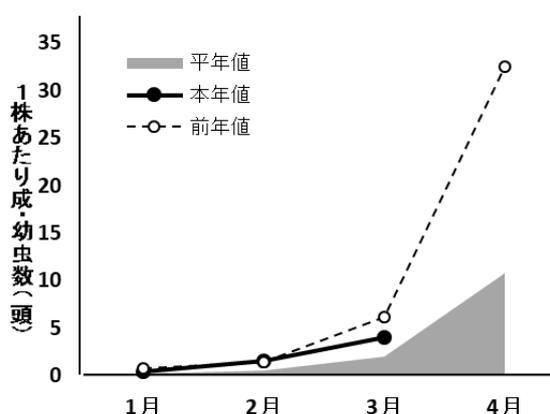


図2 タマネギ予察圃場（加西市）におけるネギアザミウマ虫数の推移

表 タマネギ現地圃場におけるネギアザミウマ発生状況（2021年3月上旬 淡路地域）

作型	調査圃場数	発生圃場率 (%)	1株あたり虫数		
			成虫	幼虫	合計
極早生～早生	15(11)	100 (90.9)	0.14 (1.74)	0.10 (4.71)	0.24 (6.45)
中生～晩生	16(35)	43.8(42.9)	0.02 (0.10)	0.06 (0.17)	0.08 (0.27)

※本年値（昨年値）

※54株（連続9株×6箇所）の新葉3葉について、見取り調査を行った。



写真1 ネギアザミウマの成虫 (左) と幼虫 (右)



写真2 タマネギ新葉の隙間に寄生する幼虫



写真3 タマネギにおける IYSV 病徴 (赤矢印) と病斑の拡大 (右上)



写真4 根深ネギにおける IYSV 病徴 (左: 初期病斑、右: 後期病斑)



写真5 ユリにおける IYSV 病斑 (左: 初期病斑、右: 後期病斑)



写真6 トルコギキョウにおける IYSV 病斑 (左: 病斑、右: 重症化し、奇形となった株)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222